

令和5年6月29日

第563号

横浜市立日吉台小学校

吉井 宣明

教育目標

みずから生きる

ともに生きる 日吉台の子

ひよしだい

日吉台小学校 創立150周年に文化の鐘が響く

校長 吉井 宣明

本校は明治6年(1873年)に創立してから6月24日で150年になりました。その前身の寺子屋「清林学舎」から数えると160年にもなります。長い歴史を紡いでまいりました。今年の6月24日は土曜日にあたりますので、前日の23日金曜日に創立記念式を行いました。その中の校長の話で私は、校歌の2番で歌われている「文化の鐘」の話をしました。毎年創立記念日はチャイムの代わりに文化の鐘を鳴らすことが習わしになっていますが、この

鐘をよく見ると、「贈 昭和廿参年度卒業生」(廿参=23)と刻印があります。校歌が制定されたのは昭和10年です。10年以上前です。これはどういうことでしょうか。当時の資料は残っておらず、今では推測するしかないのですが、おそらく校歌制定当時は時間を知らせるチャイムの役割として文化の鐘というものがあり、戦時中に行われた武器生産に必要な金属製品の回収によりなくなった。戦後、校歌に歌われている文化の鐘を復活させようと、卒業生から贈られたということではないでしょうか。さあ、150周年の創立記念日をお祝いして、今回は創立記念式で鳴らしてみようとした時、「ちょっと待った!」という実行委員児童が割って入ってきました。サプライズゲストがいるので紹介したいとのこと。それは、なんと150周年を記念して制定された日吉台小学校のキャラクター「ぶんかちゃん」。突然「本物の」ぶんかちゃんの登場に全校児童の歓声が沸きました。その後、ぶんかちゃんと私(校長)とで文化の鐘の音を響かせました。



この日はもう一つ大きなイベントがありました。それはバルーンリリース。150周年実行委員会のイベント部の企画により実現しました。コスモスの種を入れた風船に、日吉の良いところを書いたみんなのメッセージカードを付けました。多くのボランティアに支えられ、保護者の皆様や地域の方に見守られながら、色とりどりの風船が一斉に空に舞い上がりました。ここでも子どもたちは大歓声。きっと心に刻まれる思い出となったことでしょう。

